



バッチの言葉

- ① 大学バッチは円形台地に十の字の羅針をおき、東西南北の区割にそれぞれケヤキの葉三枚を配し中心に大の字を置き、小円でかこみ更に大円を描いて全体をまとめている。
- ② 十字の羅針は、人生行路の指針を誤らせないための方位を示して大志をもつ青年に注意を喚起している。
- ③ 三枚のケヤキの葉は、本学の象徴として、ケヤキの葉に托している三つの意義と人生に必要な三つの要素を示している。即ち、ケヤキに托した三つの意義とは、学長が入学式の際、学生に示した建学の精神のように、
 - ㊦ ケヤキは大樹となるので、大器になってもらいたいこと。
 - ㊧ ケヤキは大家の柱となることにならい、国家社会の柱となるように、自らにも背骨としての柱をいれてもらいたいこと。
 - ㊨ ケヤキは武蔵野のシンボルであること。などの意義と見識をもちこんでいることである。またケヤキの葉に托した人生に必要な三つの要素とは㊦理智㊧愛情㊨勇気である。
- ④ この三葉に托した意義と見識を、羅針の四つのそれぞれの区画に配したのは、どの道に進もうとも、必要なことであり、身につけておかねばならないことであることを表示している。
- ⑤ 大の字をかこむ中心の円は、バッチの台地が示す大地に立って、合理性の上に立ち円満に調和を果たすことの素地を確認させ、更にケヤキの葉を囲む四つの円は、より大きな合理性に立つ大局的な判断と、真理性、真実性への精進が、人生行路には必要であることを強調しているのである。
- ⑥ 以上の意義と理想とを、このバッチに籠めて学生と大学の関係者が、城西大学の建設と発展に地道な努力と意欲を燃やそうというわけである。

1965 年 9 月 25 日制定